

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 2 年 3 月 5 日 (2020.3.5)

【公開番号】特開 2019-19196 (P2019-19196A)

【公開日】平成 31 年 2 月 7 日 (2019.2.7)

【年通号数】公開・登録公報 2019-005

【出願番号】特願 2017-137833 (P2017-137833)

【国際特許分類】

C 0 8 L 83/07 (2006.01)

C 0 8 L 83/05 (2006.01)

C 0 8 K 3/36 (2006.01)

C 0 8 K 5/5455 (2006.01)

C 0 8 K 5/5435 (2006.01)

B 6 0 R 21/232 (2011.01)

【 F I 】

C 0 8 L 83/07

C 0 8 L 83/05

C 0 8 K 3/36

C 0 8 K 5/5455

C 0 8 K 5/5435

B 6 0 R 21/232

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 1 月 21 日 (2020.1.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

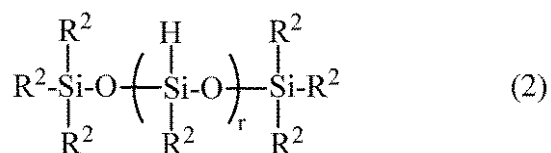
【補正の内容】

【0038】

(E-1) オルガノハイドロジェンポリシロキサン

(E-1) 成分は、下記式 (2)

【化 7】



で示される側鎖に水素原子を有するオルガノシロキシ基と末端のトリオルガノシロキシ基のみで構成されたオルガノハイドロジェンポリシロキサンである。ここで、 R^2 は独立して炭素数 1 ~ 12 の 1 価炭化水素基であり、前記 R^1 で示された基と同じものが例示され、 r は 5 ~ 50 の整数、好ましくは 10 ~ 40 の整数である。(E-1) 成分は、(E) 成分の全配合量の 1 ~ 50 質量%、好ましくは 5 ~ 30 質量%である。

なお、本発明において、(E-1) 成分が有するケイ素原子結合水素原子は、前記 (B) 成分が有するケイ素原子結合水素原子の量に比べて非常に少なく、(E-1) 成分のケイ素原子結合水素原子は、本組成物の接着性付与に供され、(A) 成分との架橋反応に供されるものはわずかであるとみなす。したがって、前記 (B) 成分の配合量を決定するために、(B) 成分のケイ素原子結合水素原子と (A) 成分のアルケニル基との比を計算する際は、(E-1) 成分のケイ素原子結合水素原子の量は考慮しないものとする。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0054

【補正方法】変更

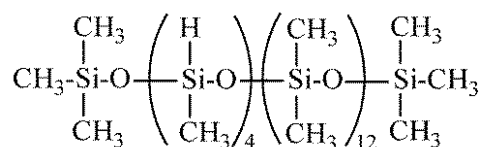
【補正の内容】

【0054】

このベースコンパウンド (I) 90 部に、粘度が約 100, 000 mPa・s の分子鎖両末端ビニルジメチルシロキシ基封鎖ジメチルポリシロキサン 83.0 部、下記化合物 1 に示す粘度が 20 mPa・s の分子鎖非末端にケイ素原子に結合した水素原子を有する、分子鎖両末端トリメチルシロキシ基封鎖のジメチルシロキサン・メチルヒドロジェンシロキサン共重合体 (ケイ素原子結合水素原子含有量 = 0.31 質量%) 8.5 部、下記化合物 2 に示す粘度が 45 mPa・s の分子鎖側鎖にケイ素原子結合水素原子を有する分子鎖両末端トリメチルシロキシ基封鎖メチルヒドロジェンシロキサン共重合体 (ケイ素原子結合水素原子含有量 = 1.08 質量%) 0.10 部、下記化合物 3 に示すアルコキシシリル基変性イソシアヌレート化合物 0.25 部、下記化合物 4 に示す -グリシドキシプロピルトリメトキシシラン 0.90 部、1-エチニルシクロヘキサノール 0.07 部、塩化白金酸 / 1, 3-ジビニルテトラメチルジシロキサン錯体を白金原子含有量として 1 質量% 含有するジメチルポリシロキサン溶液 0.20 部およびジルコニウムテトラアセチルアセトネート 0.26 部を混合して、組成物 1 を調製した。

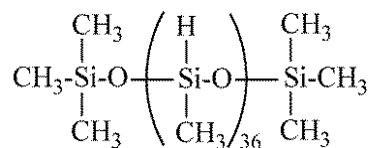
化合物 1 :

【化 1 2】



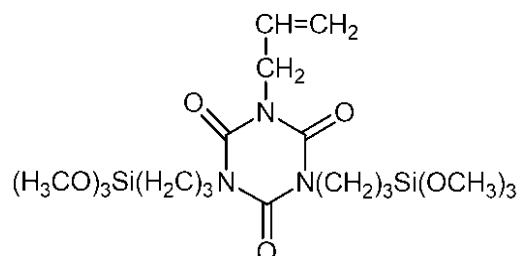
化合物 2 :

【化 1 3】



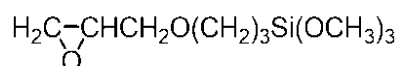
化合物 3 :

【化 1 4】



化合物 4 :

【化 1 5】



【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0061

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0061】

<実施例2>

実施例1で得られたベースコンパウンド(I)90部に、粘度が約100,000 mPa・sの分子鎖両末端ビニルジメチルシロキシ基封鎖ジメチルポリシロキサン83.0部、下記化合物5に示す粘度が25 mPa・sの分子鎖非末端にケイ素原子に結合した水素原子を有する、分子鎖両末端トリメチルシロキシ基封鎖のジメチルシロキサン・メチルヒドロジェンシロキサン共重合体(ケイ素原子結合水素原子含有量=0.15質量%)17.0部、化合物2に示す粘度が45 mPa・sの分子鎖側鎖にケイ素原子結合水素原子を有する分子鎖両末端トリメチルシロキシ基封鎖メチルヒドロジェンシロキサン共重合体(ケイ素原子結合水素原子含有量=1.08質量%)0.10部、化合物3に示すアルコキシシリル基変性イソシアヌレート化合物0.25部、化合物4に示す -グリシドキシプロピルトリメトキシシラン0.90部、1-エチルシクロヘキサノール0.07部、塩化白金酸/1,3-ジビニルテトラメチルジシロキサン錯体を白金原子含有量として1質量%含有するジメチルポリシロキサン溶液0.20部およびジルコニウムテトラアセチルアセトネート0.26部を混合して、組成物2を調製した。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0066

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0066】

実施例1で得られたベースコンパウンド(I)90部に、粘度が約100,000 mPa・sの分子鎖両末端ビニルジメチルシロキシ基封鎖ジメチルポリシロキサン83.0部、化合物1に示す粘度が20 mPa・sの分子鎖非末端にケイ素原子に結合した水素原子を有する、分子鎖両末端トリメチルシロキシ基封鎖のジメチルシロキサン・メチルヒドロジェンシロキサン共重合体(ケイ素原子結合水素原子含有量=0.31質量%)4.2部、化合物2に示す粘度が45 mPa・sの分子鎖側鎖にケイ素原子結合水素原子を有する分子鎖両末端トリメチルシロキシ基封鎖メチルヒドロジェンシロキサン共重合体(ケイ素原子結合水素原子含有量=1.08質量%)0.10部、化合物3に示すアルコキシシリル基変性イソシアヌレート化合物0.25部、化合物4に示す -グリシドキシプロピルトリメトキシシラン0.90部、1-エチルシクロヘキサノール0.07部、塩化白金酸/1,3-ジビニルテトラメチルジシロキサン錯体を白金原子含有量として1質量%含有するジメチルポリシロキサン溶液0.20部およびジルコニウムテトラアセチルアセトネート0.26部を混合して、組成物3を調製した。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0072

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0072】

<比較例3>

実施例1で得られたベースコンパウンド(I)90部に、粘度が約100,000 mPa・sの分子鎖両末端ビニルジメチルシロキシ基封鎖ジメチルポリシロキサン83.0部、化合物1に示す粘度が20 mPa・sの分子鎖非末端にケイ素原子に結合した水素原子を有する、分子鎖両末端トリメチルシロキシ基封鎖のジメチルシロキサン・メチルヒドロジェンシロキサン共重合体(ケイ素原子結合水素原子含有量=0.31質量%)8.5部、化合物2に示す粘度が45 mPa・sの分子鎖側鎖にケイ素原子結合水素原子を有する分子鎖両末端トリメチルシロキシ基封鎖メチルヒドロジェンシロキサン共重合体(ケイ素原子結合水素原子含有量=1.08質量%)0.10部、化合物3に示すアルコキシ

シリル基変性イソシアヌレート化合物 0.25 部、下記化合物 6 に示す 3 - イソシアネートプロピルトリエトキシシラン 0.90 部、1 - エチニルシクロヘキサノール 0.07 部、塩化白金酸 / 1, 3 - ジビニルテトラメチルジシロキサン錯体を白金原子含有量として 1 質量% 含有するジメチルポリシロキサン溶液 0.20 部およびジルコニウムテトラアセチルアセトネート 0.26 部を混合して、組成物 5 を調製した。